

はじめに

近年、動物の飼育頭数は減少傾向にあるものの、獣医療の進歩やフードの質の向上・飼い主様の健康意識の向上なども影響して、年々動物の寿命が伸びている傾向があります。

そのため、以前にも増して動物の介護への関心が高まっているのが現状です。

犬猫の平均寿命推移表

	犬				猫		
	全体	超小型	小型	中・大型	全体	外に出ない	外に出る
2010年	13.87	13.87	14.13	13.69	14.36	15.91	12.12
2011年	13.85	13.85	13.77	13.24	14.39	15.81	12.31
2012年	13.94	13.94	13.85	13.40	14.45	15.74	12.33
2013年	14.23	14.23	14.47	13.75	15.15	15.56	14.17
2014年	14.25	14.25	13.81	13.74	14.56	15.06	13.52
2015年	14.50	14.50	14.71	14.14	15.43	16.36	13.71
2016年	14.39	14.39	14.44	13.74	15.09	15.75	13.73
2017年	14.19	14.19	14.66	13.29	15.33	16.25	13.83
2018年	14.29	14.29	13.91	13.36	15.32	15.97	13.63
2019年	14.44	14.44	13.99	13.69	15.03	15.95	13.20
2020年	14.48	14.48	13.97	13.60	15.45	16.13	13.57
2021年	14.65	14.65	14.05	13.52	15.66	16.22	13.75
2022年	14.76	14.76	14.28	13.81	15.62	16.22	14.24

一般社団法人ペットフード協会2023年度全国犬猫飼育実態調査より抜粋

ヒトの医療では明確に看護と介護が分かれ、それぞれ別の領域ではあるものの、連携を取りより良い介護環境・介護される側のQOL・介護する側の負担軽減が構築されマニュアル化もされています。しかし動物の医療では未だ介護領域は手探り状態で、動物病院業務の一環となり、動物介護への対応が十分とはいえない状況です。

そもそも介護は、多くの場合で治療に含まれず“通常の老い”としての対応になります。そのため、飼い主様が望む「愛犬・愛猫に何かをしてあげたい」に答えられない場面も多いのではないでしょうか。

執筆者



Abe Satomi
安部 里梅

愛玩動物看護師 / 動物取扱責任者

PET CARE HOME Lyuca 代表
一般社団法人どうぶつ予防医療協会アドバイザー

■ 認定資格
動物取扱責任者
ペットフード販売士

アニマルヘルパー講座修了

